

## 2018 年度事業及び決算報告書

### 1. 2018 年度事業報告

#### 1、障がい者及びひとり親家庭への奨学金支給事業（定款第4条（1））

##### 1）2018 年度コープ育英奨学生採用計画

- ①採用数を5名増やし65名、山口奨学金を原資にひとり親家庭の高校生（公募）3名を加え、採用合計は68名とします。
- ②高等支援学校生は2018年度新設がなく昨年と同じ22名とします。
- ③以上により、ひとり親家庭の高校生（公募）は46名となります。
- ④不登校生の募集表現は若干名とし、応募状況を勘案し育英奨学生選考委員会で一般採用と併せ答申し、2018年度第1回理事会で決定します。

##### 2）奨学金支給予算

奨学金は月額1万円とします（規則第8条：支給金額月額5千円～1万円）。

支給金額は190名に2,280万円で前年度の165名1,980万円に対し300万円増になります。

■採用・奨学生人数・給付額（単位：万円）注：（ ）内は不登校枠

奨学生	2015 年	2016 年	2017 年	18 年予算	前年差
ひとり親家庭(公募)	27 (2)	41 (3)	39 (2)	46 (未)	+7 人
高等支援学校生	19	21	22	22	0
採用1年生計	46	62	61	68	+7 人
1～3年生計	122	145	165	190	+25 人
奨学金額	1,464 万円	1,740 万円	1,980 万円	2,280 万円	
前年差	+84 万円	+276 万円	+240 万円	+300 万円	

※16年は3月公募40名、事務局不手際で7月に1名追加採用。

■2018年度奨学生（想定）。（ ）内は不登校枠の生徒

学年	ひとり親家庭の生徒	高等支援学校生	合計	2017 年	前年差
1 年生	46 (未)	22	68	61	+7
2 年生	39 (2)	22	61	62	▲1
3 年生	41 (3)	20	61	42	+19
合計	126 (5+未)	64	190	165	+25

##### 3）奨学生、保護者等とのコミュニケーション

「育英奨学生通信」を年4回振込月（5・8・11・2月）に発行します。

2月に卒業生に記念品を贈呈し、卒業生感想文特集（5月）に発行します。

##### 4）2019 年度以降の育英奨学金事業の検討

高等支援学校は分校化など多様化が進んでいます。奨学金の配分（推薦依頼をする高等支援学校の範囲）、ひとり親家庭の高校生（公募）と高等支援学校生（推薦依頼）の募集人数について、10月開催の第3回理事会に答申し、2019年2月開催の第4回理事会で2019年度育英奨学金事業計画に反映させます。

## 1、ひとり親家庭の奨学生（公募）の応募資料請求のまとめ

3月1日～4月9日締切で238件の請求がありました。

財団への応募書類の請求がパソコン（スマホメール含む）で72%、全請求ではホームページのダウンロードを含めインターネットでの資料請求は201件で84%になりました。

財団に資料請求して実際に応募した率は69%（17年69%、16年68%、15年70%）です。

### ■応募資料請求内訳

年度	メール	F A X	ハガキ	電話	財団受計	ホームページ	合計
18年	94	19	16	2	131	107	238
構成比	72%	15%	12%	2%	49%	51%	
17年	90	19	37	1	147	134	281
構成比	61%	13%	25%	0.7%	52%	48%	
16年	93	43	51	1	188	126	314
構成比	49%	23%	27%	1%	60%	40%	
15年	51	33	37	14	135	66	201
構成比	38%	24%	27%	10%	67%	33%	

《地域別の応募状況》～ 24市（22）、22町（22）、0村（2）から237人の応募がありました。

注（ ）内は17年件数

札幌市 107（100）、江別市 5（10）、石狩市 3（3）、北広島市 3（5）、小樽市 2（4）、倶知安町 2（0） 当別町 0（1）、長沼町 1（1）、岩見沢市 7（1）、千歳市 13（3）、余市町 0（3）恵庭町 1（1）三笠市 0（1）、留寿都村 0（1）
旭川市 8（7）、深川市 1（2）、富良野市 6（0）南富良野町 1（0）、中富良野町 3（0）、名寄市 3（0）、士別市 1（0）、滝川市 1（0）、美唄市 3（0）、雨竜町 1（0）、和寒町 1（0）、留萌市 0（1）、赤平市 0（1）、歌志内町 0（1）、羽幌町 0（1）、東川町 0（1）
函館市 17（10）、北斗市 1（3）、乙部町 1（0）、瀬棚町 1（0）、森町 0（2）、七飯町 1（1）、今金町 0（1）
苫小牧市 11（11）、室蘭市 9（8）、伊達市 2（2）、登別市 1（4）、厚真町 1（1）、浦河町 1（0）、新ひだか町 2（0）、様似町 0（2）、白老町 0（1）、安平町 0（2）、
帯広市 5（6）、音更町 5（0）、上士幌町 1（0）幕別町 1（1）、中札内村 1（1）、新得町 0（1）、鹿追町 0（1）、
釧路市 3（2）、白糠町 4（0）、中標津町 1（0）、根室市 0（1）、標津町 0（1）、別海町 0（1）
北見市 5（10）、遠軽町 1（3）、紋別町 1（1）、興部町 1（0）、美深町 1（0）、雄武町 0（1）

## 2、2018年度コープ育英奨学生選考委員会の開催と答申の報告

4月21日午前中にコープ育英奨学生選考委員会を開催し、同日午後開催の2018年度第1回理事事に下記の「2018年度コープ育英奨学生の採用の答申」を作成しました。

①公募のひとり親家庭には、198名の応募で46名採用に対し4.3倍でした。

②応募の内訳は、一般高校生178名、不登校生20名（内、財団規定が0名）です。

年度	応募計	財団から 応募	HPから 応募	一般高校 生応募	不登校生 応募計	学校認定	財団規定 の認定
18年	198	92	106	177	20	20	0
17年	236	102	134	219	17	16	1
16年	253	127	126	233	20	20	0
15年	160	94	66	150	10	7	3

(1) 2018年度公募奨学生46名のうち、不登校生採用人数枠3名を決定

先ず、応募倍率と15～17年度の不当校生枠の推移から不登校枠を3名とし、公募の46名と補欠を決めました。

■一般奨学生及び不登校生の採用実績

年度	採用合計	一般高校生	倍率	不登校生	倍率
18年	46	43	4,2	3	6,3
17年	39	37	5,9	2	8,5
16年	40	37	6,4	3	6,7
15年	27	25	6	2	5

《一般 178 件の申請状況》17年 236 件、16年 233 件、15年 150 件、私立高校生 60 名

項目	18年平均	備考	項目の説明
年収	280,1万円	17年 262,6万円 16年 260,5万円	15年 294,4万円、14年 241,1万円
収入	226,4万円	17年 207万円 16年 203,5万円	15年 204,6万円、14年 192,2万円 収入＝年収－授業料－家賃＋児童扶養手当等－通学費
収入基準点	3,93	17年 4,30 16年 4,34	15年 4,11、14年 3,9、年収 120 万円 6 点を起点に 30 万円で 0.5 点の減点。下限は 390 万円以上 1 点。
扶養加算	一人 83 人、二人 24 人、三人 9 人、四人 1 人、六人 1 人	2017 年一人 98 人、二人 39 人、三人 8 人	2015 年一人 108 人、二人 28 人、三人 8 人 扶養家族（学生除き 19 歳未満）1 名ごとに 1 点加算
収入評価	4,87	17年 5,2、16年 4,94、15年 4,94	収入評価＝収入基準点＋扶養加算－生保減算
学科点	3,46	17年 3,6 16年 3,6、15年 3,58	学校が個人調査表に記載の学科別点数合計
学業評価基準点	3,55	17年 3,75 16年 3,77,	全科目の平均点、2.5 未満 1 点を起点に 0,5 刻みで 0,5 点加算。上限は 4,5 以上で 6 点。

(2) 高等支援学校生の学校推薦の 22 名の選考の件

選考委員会は、3月6日に高等支援学校 22 校に推薦を依頼し、4月20日までに推薦いただいた 22 名全員を採用する答申を行いました。なお、推薦の事由で、母子家庭 14 件、7 件が両親がいても病気、失業中、・自営業など収入が少ない等不安定で経済的に苦しいなどが推薦理由です。

3、2018 年度第 1 回理事会でコープ育英奨学生採用を議決

4月21日午後開催の 2018 年度第 1 回理事会で「2018 年度コープ育英奨学生の採用の答申」を議決し、4月24日に全応募者に結果を通知し、採用者には書類を送りました。

■年度別奨学生採用実績 ( ) 内は不登校生採用人数

年度	ひとり親家庭の生徒	高等支援学校生	採用合計
2018 年	46 (3)	22	68
2017 年	39 (2)	22	61
2016 年	41 (3)	21	62
2015 年	27 (2)	19	46
2014 年	21 (1)	19	40
2013 年	21	18	39

#### 4、2018年度育英奨学生の数と奨学金給付額 (2019/3/20現在)

2018年2月第5回理事会で2018年度奨学金予算を190名2,280万円としました。期中に、3年生が3月に退学1名(3年生)、6月に3年生で辞退1名、不登校枠採用1年生が11月退学し補欠1名繰上げ採用、1月に支援学校1年生が退学し187名になりました。2018年度奨学金給付は2,250万円(予算▲30万円、前年+276万円)でした。

( )内は不登校枠の生徒

学年	ひとり親家庭の生徒	高等支援学校生	合計
1年生	46 (3)	22→21	68→67
2年生	39 (2)	22	61
3年生	41→40 (3)	19	60→59
合計	126→125 (8)	63→62	189→187

#### 5、2019年度の奨学生選考基準の検討について

2018年度の育英奨学生を選考の際に各委員よりだされた意見に対し、9月6日にコープ育英奨学生選考委員会を開催し、選考基準の見直し(答申書作成)を予定しましたが、胆振東部地震のため開催できませんでした。代替え処置として選考委員に対しアンケートを実施し、10月20日開催の第3回理事会にて選考基準について審議し、2019年2月開催の第4回理事会で2019年度育英奨学生選考基準を議決しました。

#### 6、2019年度以降の公募・高等支援学校生募集人数の検討について

2018年2月24日開催の2017年度第5回理事会で奨学金事業について、2014年度まで40名前後の採用がサポーター募金の順調な伸びで60名採用(合計180名)に増えているが、限られた財源で今後のひとり親家庭の高校生(公募)と高等支援学校生(推薦依頼)の採用人数枠について2018年度中に検討し、2019年2月開催の第4回理事会で決める、ことを議決しました。

第4回理事会で、2016年2月の第3回理事会で決めた特別支援学校高等部生の学校推薦基準(職業学科設置で3学級以上、定員24名以上)を改めて確認し、対象となる釧路鶴野支援学校(6学級48名)と2019年度新設の函館高等支援学校を追加し、特別支援学校生24名(昨年22名)の募集をきめました。

(2) 社会福祉施設及び福祉ボランティア活動等への助成事業（定款第4条(2)）及び 地域住民相互の助け合い活動への助成事業（定款第4条(3)）

①地域福祉助成の予算

- ・ 地域福祉助成は600万円（前年同）とします。（当面、財団の収入増分は奨学金を優先し、地域福祉助成は据置きます）
- ・ 団体助成の募集は、45団体450万円（1件の上限10万円）、活動助成は、5団体150万円（1件上限30万円）です。
- ・ 定款上の区分の福祉助成金は400万円、助け合い助成金は200万円を想定します。
- ・ 尚、福祉助成審査委員会は応募状況と審査により、前記の各助成額を総額予算内で変更した答申を行う場合があります。

年度	団体助成		活動助成		合計	
	件数	金額(万円)	件数	金額(万円)	件数	金額(万円)
2014年	38	344	2	36	40	380
2015年	48	437	3	87.5	51	524.5
2016年	47	434.5	7	180	54	614.5
2017年	50	459	6	150.5	56	609.5
2018年	45	450	5	150	50	600

- ②4月21日開催の2018年度第1回理事会で2018年度地域福祉活動助成の募集要綱を議決します。
- ③2018年度スケジュールは、募集4/27～6/4 審査委員の事前審査6/18～6/30、委員長副委員長打合せ、7月21日助成審査委員会を開催し答申書作成します。
- ④7月21日開催の第2回理事会で贈呈先を議決します。
- ⑤8月2日（木）京王プラザホテルで2018年度福祉活動助成贈呈式・活動交流会を開催します。

1、募集のまとめ

4月27日～6月4日まで2018年度コープ福祉活動助成を、下記のように募集しました。

募集区分	「使途」	助成額
団体助成	①「団体助成」～収入が3000万円未満で、概ね1年以上活動する団体に対し、特定の使途に限定せず、団体の運営費用に充てることができます	上限10万円 45団体程度 総額450万円
活動助成	②「活動助成(事業)」～貧困問題、子どもの貧困対策、地域の助け合い、居場所づくりなど、地域が抱える福祉の課題に対する取組む事業、企画、催しなどに使途を限定して助成します。 ③「活動助成(立上げ)」～福祉活動等の団体の立上げ費用を助成します。(立上げ1年未満を含む)	上限30万円 5件程度 総額150万円
	総額	600万円

- ①事務局への応募用紙請求は17件(昨年27件)で大半がHPのダウンロードです。
- ②応募総数は過去最高の100件1365万円(昨年99件)でしたが、「活動助成」で重複応募が1団体あり実際は99団体でした。

③団体助成は募集対象外の2団体を含め78件745万円(昨年83件782万円)でした。「活動助成」は、(企画)で14件(昨年10件)、(立上げ)が7件(6件)で合計21件624,5万円の応募でした。

③初めての応募は57団体(昨年70団体、16年65団体)でした。

■2013～18年度の応募団体数 注：()内は応募額、単位万円

	18年	17年	16年	15年	14年	13年
団体助成	78(745)	83(782)	72	83	47	53
企画助成	14(420)	10(279,5)	12	9	3	13
立上げ助成	7(204,5)	6(166,5)				
合計	99(1369,5)	99(1228)	84	92	50	66

#### ■地域別応募

16市3町1村から応募があり、次年度、応募の少ない北空知、苫小牧、北見、帯広方面について、関係市町並びに福祉団体への広報を強化する必要があります。

道央	道北	道南	釧路	苫小牧	室蘭	北見	帯広
札幌57、石狩1 岩見沢1、江別4、 小樽4、北広島3、 夕張1	旭川4、 美瑛1、	函館4	釧路7、 白糠1	白老1、	伊達1、登 別2、室蘭 1	北見1、 網走2	帯広1、 中札内2

■団体区分別応募まとめ 注：()内は2017年度応募件数

区分4の団体が大幅に増えました。

団体区分		団体助成	企画助成	立上げ	18年度計	17年度
1	障がい者支援・施設運営	10(12)	1(1)	(1)	11	14
2	福祉ボランティア活動	27(29)	4(2)	3(2)	34	32
3	一定広域で福祉活動	12(15)	3(5)		15	20
4	相互扶助・助け合い	17(11)	5(2)	4(3)	26	16
5	疾病者等の自助活動	12(16)	1(0)		13	16
	合計	78(83)	14(10)	7(6)	99	99

## 2、事前審査対象外について

①「団体助成」で募集対象外の収入が3000万円以上の団体が2団体ありました。

②該当した団体は「団体助成」応募では78団体中20団体(26%)、「活動助成」では該当団体はありませんでした。

注：団体により審査外の基準が重複該当する団体があり、合計とは一致しません。

助成区分	3年連続助成	繰越金10%、30万円以上	公的資金70%以上	対象外団体
①団体助成	3	17	5	23
②活動助成	0			0
合計	3	17	5	23

■「団体助成」応募の団体区分別の「対象外団体」数

応募76団体(収入3千万円上の審査対象外2団体除く)中、事前対象外に該当は20団体です。基準変更2年目で対象外が区分1が9割、3が5割と増える傾向です。

注：( ) 内は 2017 年度数

団体区分		応募	応募審査対象	対象外	18 年度対象外比	17 年度	16 年度
1	障がい者支援・施設運営	10(12)	9	8(8)	89%	50%	61%
2	福祉ボランティア活動	29(29)	29	3(3)	10%	10%	15%
3	広域で福祉活動をする	15(15)	14	7(6)	50%	40%	13%
4	相互扶助・助け合い	11(11)	11	1(4)	9%	36%	11%
5	疾病者等の自助活動	16(16)	16	1(4)	6%	25%	18%
	合計	78(87)	76	20(23)	26%	28%	26%

### 2018 年度コープ地域福祉助成審査基準

	<p>下記①～⑦の団体は事前審査の「対象外団体」とし、応募状況に応じて下記の掲載順に「対象団体」に繰り上げる。</p> <p>①直近で過去 3 年間連続して福祉助成を受けた団体。但し、申請団体の事業が先駆的で地域福祉助成の趣旨に合致し、財政的な基盤の弱い団体には継続して助成又は減額助成をすることもある。</p> <p>②収入の 10%以上の繰越金がある団体。但し、繰越金が 30 万円以下(助成額 10 万円の 3 倍)の団体は事前審査対象とする。</p> <p>③継続的に公的資金が収入の 70%以上の団体。(公的資金とは、行政の事業委託費、障害者自立支援給付費、介護報酬の 3 を言う)</p> <p>④設立が 1 年未満の団体、</p> <p>⑤連帯組織・中間支援団体、</p> <p>⑥事業内容が不明又は恒常的な活動をしていない団体、</p> <p>⑦町内会</p>
団体助成	
活動助成	<p>①直近で過去 3 年間連続して福祉助成を受けた団体は「対象外団体」とする。</p> <p>②申請団体を直接支援する内容でない企画や事業は「対象外団体」とする。</p> <p>③活動助成の趣旨から減額の助成はしない。</p>

### 3、助成審査委員全員 (7 名) による事前審査のまとめ

6 月 19 日に審査委員に全応募団体～団体助成応募 78 団体(募集対象外 2 団体を含む)、活動助成 21 団体の申込書と、各「事前審査票」を送付し事前審査を行いました。事前審査の集計結果は、50 団体 600 万円の助成計画に対し、委員の過半数以上が助成「可」の判定は 59 団体に 668 万円の助成で、予算に対し+68 万円でした。

#### (1) 「団体助成」の事前審査集計結果

募集対象外 2 団体及び事前審査対象外 23 団体を含め全応募団体を審査し、委員の過半数 4 名以上が助成可としたのは、53 団体助成額 508 万円で計画に対し+58 万円増です。5 名以上が「可」としたのは 44 団体で助成は 418 万円で、4 名が「可」としたのは 9 団体で 90 万円です。

#### (2) 「活動助成」の事前審査集計結果

委員の過半数 4 名以上が助成可としたのは、6 団体(事業助成 3、立上げ助成 3)で助成額は 160 万円で、計画に対し+10 万円です。

■事前審査で審査委員が助成「可」として団体数

助成区分	4名以上	7名	6名	5名	4名	3名	2名	1名	0
①団体助成	53	17	14	13	9	4	2	10	9
②企画助成	3			2	1	6	3	2	
③立上げ助成	3		1	1	1	1	2	1	
合計	59	17	15	16	11	11	7	13	9

4、地域福祉助成審査委員会と第2回理事会の開催、助成先の決定

7月10日(火)、コープ地域福祉活動助成審査委員会をコープさっぽろ北12条店2階会議室で開催し、審査委員6名が参加し、審査の結果、52団体に598万円(予算比▲2万円)の助成を決め第2回理事会への答申を確認しました。

①「団体助成」46団体に438万円

②「活動助成」6団体に160万円

■定款第4条の事業区分による助成は下記の通りです。

定款4条区分 (2) 社会福祉施設及び福祉ボランティア活動等への助成							
(公2)福祉助成	団体助成		活動助成		合計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
1. 障害者支援団体	2	200,000	1	300,000	3	500,000	
2. 福祉ボランティア	20	1,900,000	1	300,000	21	2,200,000	
3. 社会福祉団体	5	500,000	0		5	500,000	
合計	27	2,600,000	2	600,000	29	3,200,000	
定款4条区分 (3) 地域における住民相互の助け合い活動に関する助成							
(公3)助け合い助成	団体助成		活動助成		合計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
4. 助け合い団体	15	1,380,000	4	1,000,000	19	2,380,000	
5. 自助団体	4	400,000	0		4	400,000	
合計	19	1,780,000	4	1,000,000	23	2,780,000	
総計							
福祉助成合計		団体助成		活動助成		合計	
		27	2,600,000	2	600,000	29	3,200,000
助け合い助成合計		19	1,780,000	4	1,000,000	23	2,780,000
総計		46	4,380,000	6	1,600,000	52	5,980,000

5、審査結果の通知と助成金の振込

7月21日(土)開催の第2回理事会で答申に基づき審議し答申通りの贈呈先を議決しました。7月26日に全応募団体に審査結果を通知し、助成団体には月末に助成金を指定口座に振込みました。

6、2018年度コープ地域福祉助成贈呈式&交流会の開催

(1) 8月2日に地域福祉助成贈呈式・交流会をTPK札幌カンファレンスセンターで開催し、過去最高の49団体71人(昨年41団体60人)が参加しました。今回初めて全応募団体に案内し函館、白老、登別、岩見沢、旭川、白糠、釧路、中札内からも参加がありました。助成不可団体の16団体18人が参加し、団体・活動助成の夫々の代表の方に贈呈目録をお渡し、6グループに分かれ交流を行いました。

(2) 今回初めてアンケートを行い59人から回答があり、「大変良かった」62%、「良かった」31%との結果で、「初めて他の団体と交流・意見交換ができた」、「いろいろアドバイスをいただいた」、「経験を聞けて良かった」、「さまざまな場所で色々な事が行われてい



るのを知り、勉強になりました」、「このような機会を設けていただいた基金に感謝」などのご意見をいただきました。

- (3) 反省点は予想を超えた参加で会場が狭く、グループの人数が多くなった、長机のためグループ内の会話が聞き取りにくかった、などです。なお助成決定前の案内のため、助成不可の19団体から不参加の連絡がありました。

## 7、2018年度地域福祉助成の結果の広報

財団HP及び10月発行の「ふくし基金だより」78号、「ちょこっと」10月号（10/1発行）等で結果を広報します。

### （3）社会福祉に関する調査・研究及び啓発事業（定款第4条（4））

#### ①地域福祉等に関する講演会の開催

11～12月に貧困・格差・奨学金などに関するテーマで、コープさっぽろ組合員活動委員会と共同で講演会かフォーラムを開催します。

#### ②広報啓発活動は、「ふくし基金だより」、「サポーター通信」を年2回（5・11月）発行します。

また、ホームページを更新し事業内容等のお知らせ、各種募集案内及び応募書式を掲載し、より多くのアクセスができるようにします。

#### ③「北海道奨学金ネットワーク」の幹事団体・事務局として参加し、奨学金問題の情報や活動の交流を行い情報発信します。

## 1、2018年度福祉講演会(第8回)の報告

12月14日（金）に2018年度福祉講演会を宅配中央センターほか全道22会場で開催し176人（札幌65人＋TV会議地方会場111人）が参加しました。講師は上山浩次郎氏（北海道大学大学院教育学研究院助教）で「北海道の子どもの貧困について～子どもの生活実態調査をふまえて」をテーマにお話しいただきました。上山先生は北海道大学と北海道・札幌市が連携して2016～2017年に実施した「子どもの生活実態調査」結果を中心に、子どもの貧困についての国際比較、国内比較などについてお話を伺いました。質疑応答でも、こどもの貧困に対する問題意識や行政への憤り、今後の対策に対する期待感が、多くの発言に繋がりました。2013年施行の子どもの貧困対策法は2019年に必要な検討・措置を講ずる、となっていて、今回の学習会はその第一歩として意義のある機会となりました。

## 2、広報活動について

6月に「ふくし基金だより」77号、「サポーター通信」第3号を発行、事業・各募集が全道の該当世帯・団体に告知できるように郵送団体を増やしました。ホームページ各種募集案内及び応募書式を掲載し、チラシ・ポスターにQRコードをつけアクセスが増えています。

## 3、北海道奨学金ネットワーク

事務局として幹事団体会議を6回開催し、9月27日のネット主催「奨学金の給付・返済支援のHP等の情報発信交流会」に16団体23名が参加しました。2月28日に2019年度第3回総会を開催し、財団から4名が参加し木村理事長が代表挨拶、谷本事務局長が報告しました。

総会では「北海道奨学金ガイド」作成と2018年度の道内民間奨学金団体の奨学金給付の調査報告があり、道知事に奨学金による学生の地元定着の取り組みの要請を決議しました。

## 2. 2018 年度決算報告

### (1) 経常収益 (収入)

予算 3,701 万円に対し実績 3,667 万円 (予算▲34 万円、前年+272 万円)でした。

①基本財産運用益は予算通り 480 万円です。

②受取会費は 435 万円 (予算+37 万円、前年+43 万円)、内、法人会費 392 万円 (予算+22 万円、前年+30 万円) でした。法人会費 210 件は 1998 年 258 件に次ぐ最も高い水準 (17 年 179 件、16 年 180 件) です。生協会の協力で昨年 3 月、全会員企業に当財団の法人賛助会員のご協力をお願いを送付した効果が表れたものと思われま。

個人会費 43 万円 (予算+15 万円、前年+13 万円)も 2010 年 45 万円に次ぐ高額でした。

・賛助会費受取状況 (単位:千円)

年度	法人		個人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2018 年	210 件	3,920	160 件	430	370 件	4,350
2017 年	179 件	3,620	153 件	153	332 件	3,916
増減	+31 件	+300	+7 件	+134	+38 件	+434

③受取寄付金は 2,752 万円 (予算▲71 万円、前年+229 万円) でした。

うち法人寄付金は 229 万円 (予算+29 万円、前年+17 万円)、個人寄付金は 53 万円 (予算+50 万円、前年+43 万円) でした。

・受取寄付金状況 (単位:千円)

年度	法人寄付金		個人寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2018 年	12 件	2,292	5 件	534	17 件	2,826
2017 年	13 件	2,126	10 件	102	23 件	2,228
増減	▲1 件	166	▲5 件	432	▲6 件	598

\*法人寄付金内訳:

コープさっぽろ愛と協同の募金 (店頭) 17 年度分 716,711 円、

コープさっぽろ年末助け合い募金 (宅配) 752,752 円、日本アクセス北海道 500,000 円、サカタの花 1,000 円、大和屋 10,000 円、新発寒ユニセフグループ 20,000 円、ソシアコープ委員会 2 回計 20,000 円、西岡ボランティアグループ 100,000 円、北広島福祉の会 2 回計 50,000 円、OFFICE NAKAMOTO: オランダ 111,600 円

\*個人寄付金内訳: 札幌在住 (匿名) 500,000 円、大橋裕子 28,000 円、サトウハジメ 2 回計 5,000 円、匿名 1,000 円

### ④指定寄付金

育英奨学金給付 2,250 万円と福祉活動助成金 320 万円の一部に充当するため、指定正味財産から 2,469 万円 (予算▲151 万円、前年+169 万円)を振替えました。

### (2) 経常費用 (支出)

予算 3,660 万円に対し実績 3,613 万円 (予算▲46 万円、前年+249 万円) でした。

①事業費の内訳は、育英奨学金給付が 2,250 万円 (予算▲30 万円、前年+276 万円)、地域福祉活動助成金は 598 万円 (予算▲2 万円、前年▲12 万円)で、内訳は福祉助成金 320 万円、助け合い活動助成金 278 万円です。

広報啓発費は 330 万円 (予算▲30 万円、前年▲28 万円) でした。福祉講演会が当初想定より節費となりました。委託費は予算通りの 138 万円でした。

②管理費は 297 万円（予算+16 万円、前年▲126 万円）でした。

今年度より、事業に関わる委託費は、事業費に予算・実績計上しているため、前年との比較で委託費（事業費）と委託料（管理費）の前年比較で 138 万円の入り繰りがあります。

また今年度より、会議費から役員報酬謝金を分けて予算・実績計上しているため、前年との比較で 32 万円の入り繰りが発生しています。

(3) 当期経常増減額（収支）

予算 42 万円に対し、実績 54 万円（予算+12 万円、前年+23 万円）でした。

なお公益事業会計では▲49 万円、法人会計 103 万円となり、収支相償を満たしています。

(4) 指定正味財産増減の部

①当期サポーター募金の指定正味財産受入額は 2,419 万円（予算差▲1 万円、前年差▲316 万円）とほぼ想定通りでした。昨年は 2,735 万円（山口様寄付 500 万円含む）です。

・トドックふくし基金サポーターの募金実績（4 月～9 月累計）

	サポーターのべ人数（累計）		一人平均募金額
2018 年	124,969 人	24,189,200 円	194 円
2017 年	124,900 人	22,345,900 円	179 円
増減	+69 人	+1,843,300 円	+15 円

②育英奨学金給付と福祉活動助成金に充当するため 2,469 万円（予算▲151 万円、前年 169 万円）を指定寄付金に振替えました。内訳はサポーター募金から 2,433 万円、山口奨学金資産から 36 万円（1 万円×3 名×12 ヶ月分）です。

③指定正味財産期末残高は 856 万円（予算+149 万円、前年▲50 万円）です。内訳はサポーター募金による資産 392 万円と山口奨学金資産 464 万円です。